

for the
Look Back 50th

広報おおぶで振り返る あの人は今。



Birthday



Judo



Boxing



Violin



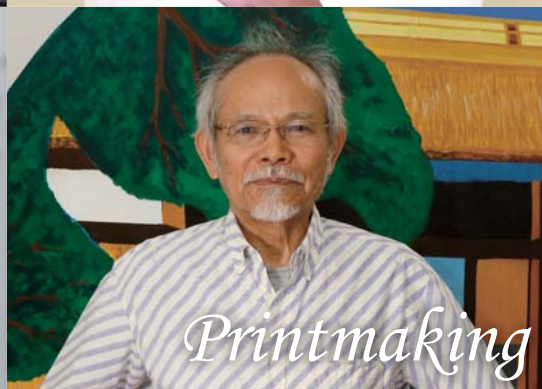
Judo



Badminton



Violin



Printmaking



Baseball



Cello



Drama



Mascot

はじめに

2020年9月1日、大府市は市制50周年を迎えました。この市制50周年という節目を盛り上げるため、広報おおぶ2019年9月1日号から2020年8月合併号まで連載したシリーズ「Look Back 50th 広報おおぶで振り返る あの人は今。」。

このシリーズは、過去に広報おおぶの記事に協力していただいた方に再び登場していただき、過去を振り返りながら、未来に向けた夢を語っていただいたものです。

紹介する皆さんは、大府の50年の歩みの中で、大府に夢と希望を与え、広報おおぶに華を添えてくれた、大府を語る上では欠かせない大府の財産です。大府市として、この貴重な財産を次の世代に伝え、取材した皆さんから感じた「大府愛」を次の50年に受け継いでいく使命を果たしたい。そんな思いで、このたび再編集し、冊子化いたしました。

人それぞれ人生があり、その人の人と成りを知ること、その人を応援し、その人が歩んできた道と自分の道を重ねることで共感も生まれ、それが生きる道しるべになることがあります。

「大府を誇りに、大府を懂れに、大府をもっと好きに」。願いを込め、皆さんの手元にお届けします。

2020年9月

Contents

Look Back 50th
広報おおぶで振り返る あの人は今。

4	山口裕次さん	2019年9月1日号掲載
6	森岡完介さん	2019年10月1日号掲載
8	水野紗希さん	2019年11月1日号掲載
10	打田しづかさん	2019年12月1日号掲載
12	吉田秀彦さん	2020年1月合併号掲載
14	佐藤桂菜さん	2020年2月1日号掲載
16	おぶちゃん	2020年3月合併号掲載
18	飯田覚士さん	2020年4月1日号掲載
20	大石康さん	2020年5月合併号掲載
22	土田英生さん	2020年6月1日号掲載
24	横原寛己さん	2020年7月1日号掲載
26	竹澤恭子さん	2020年8月合併号掲載

大府市は 私の同級生。



昭

和45年9月1日、県内24番目の市として誕生した大府市。その大府市と同じ日に生まれた山口裕次さん。広報おぶでは、市制施行記念の節目に、山口さんを追いかけて、当時から掲載を続けています。

昭和46年9月1日号では、1歳になった山口さんに当時の大島市長がお祝いの記念品を贈呈。昭和50年9月1日号では、市制5周年のお祝いに、5歳になった山口さんが絵を描き、昭和55年9月1日号では、共和

西小学校の4年生だった山口さんの作文が掲載されました。今回は、当時の思い出や現在の活動の取材を通して、山口さんの人柄に迫ります。

9月1日は特別な日

「大府市と同じ誕生日で、周りの方からどんな声を掛けられますか。同級生や近くに住んでいる方は、私が9月1日生まれであることを知って

キューなどを行っています。公民館まつりで得た収益は、学校に寄付し、子どもたちのために使っていただいています。

いいまちをこれから

「山口さんの思う、共和のまちづくりとは？」

この50年で、共和地区は劇的に変わりました。今の子どもたちが私のように地元が好き「地元に戻りたい」と思ってもらえるようなまちを作り上げたいです。

「次の50年に向けて、挑戦したいことはありますか？」

大府市と一緒に、100歳を祝っていただけるよう長生きしたいです。祝ってもらったことを皆さんに自慢したいです。

「最後に市民の方にメッセージをお願いします。」

大府市はとても住みやすいまちになったと思います。お互いに「住みやすいね。大府！」と言い合えるようなまちになるよう、皆さんで「いいまち大府」を作っていきたいですね。



▲965 隊のみんなでハイ、チーズ



- 1 965隊のメンバーとその家族
- 2 プール清掃を終えて
- 3 965隊のロゴマーク
- 4 暑い中での除草活動



▲1971年9月1日号



▲1975年9月1日号



▲1980年9月1日号



▲2010年9月1日号

大府市の「伴走者」 山口 裕次

>>PROFILE 1970(昭和45)年9月1日、大府市誕生と同じ日に生まれる。

います。大府市と同じ誕生日だと覚えてもらっているのが、9月1日が近くなると「裕次、そろそろ誕生日だね」と私の話題が出てきます。

**縁の下の力持ちで
学校を支えたい**

「現在は、どんな活動をしていますか。」

今は、私たちが平成24年に共和西小学校の保護者で立ち上げた965(くろこ)



1 1988年8月壁画を制作したメンバー 2 壁画の最終チェック 3 2017年9月のリニューアルされた壁画 4 市に寄付した作品

おかげさまで人生
—最後に市民の方にメッセージをお願いします—
大府の皆さんには、感謝しています。皆さんと出会って今の私があり、評価していただいていると感じています。おかげさまで人生です。大府は、私を育ててくれて、感謝しています。これからも市の取り組みなどに協力させていただきたいと思っています。

挑戦し続けよう
—現在の活動は？—
来年に迎える80歳の節目に東京・銀座と名古屋で個展を開催する予定です。現在は、そこで展示する伊勢シリーズを手掛けているところです。実際に伊勢に行き、歴史などを調べ、作家の目線で伊勢を表現しようと考えています。他の展覧会もあるので、並行して準備を進めています。



▲1988年9月1日号表紙



▲同号2・3頁(壁画の説明が書かれています)



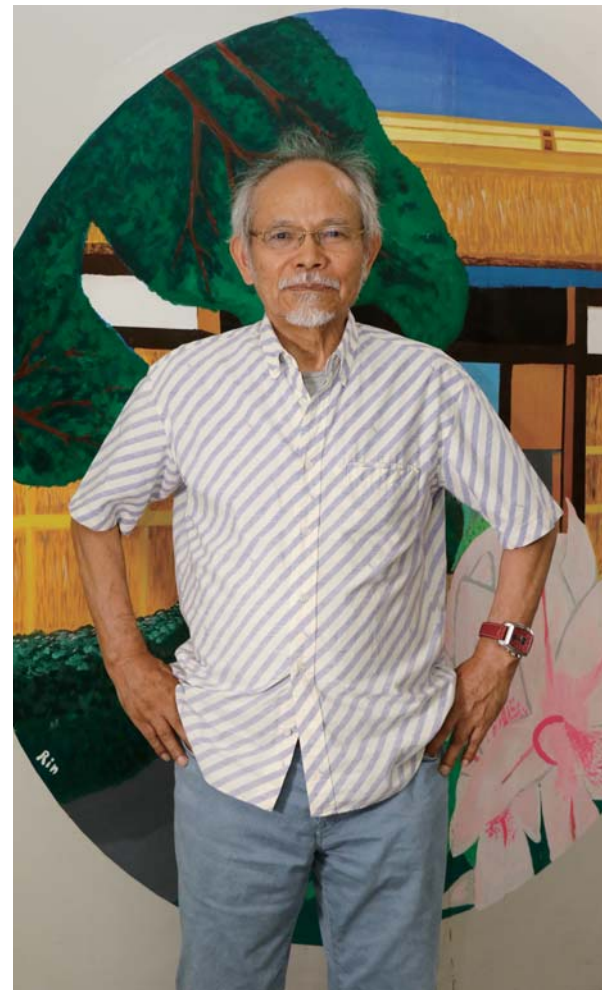
▲同号4・5頁(森岡さん(右上))

継続は力なり。

令和元年9月2日に行われた市制49周年記念式典で、第1号となる大府市文化芸術功労賞を受賞した森岡さん。昭和49(59)年に美術科の教員として大府中学校で教鞭を執られました。森岡さんと聞いて大府駅前地下道の壁画を思い出す方もいるのではないのでしょうか。森岡さんは、昭和63年8月に四季と健康のイメージを表現した壁画を教え子らとともに制作しました。それから29年後の平成29年9月、市内4中学校の現役美術部員らによって、

市民の皆さんあっての今の私
—大府市文化芸術功労賞受賞おめでとう—
壁画がリニューアルされた際にも制作に協力しました。広報おおぶ昭和63年9月1日号では、その地下道の壁画の完成披露と制作過程をお伝えしました。当時の思い出や現在の活動を通して、森岡さんの素顔に迫ります。

—版画家になったきっかけは？—
昭和52年、大府中学校に勤めていた時、日本現代版画大賞展の優秀賞を受賞したことを機に版画の道を歩むようになりました。



版画家 森岡 完介

>>PROFILE 1941年1月名古屋生まれ。1964年愛知学芸大学(現・愛知教育大学)美術家卒業後、美術の教員になり、1974~84年には大府中学校で教鞭を執る。県芸術文化選奨文化賞や第12回クラコウ国際版画ビエンナーレ国立美術鑑賞などを受賞。

大府市に恩返しを。

大府市公式イメージ曲制作

水野 紗希

>>PROFILE 大府市出身で、北山小、愛知淑徳中、菊里高校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽部、同大学研究科を修了。『宝石の八神』CM曲の演奏や、クラシック音楽に限らず、ポップスやロック、ジャズなどジャンルを越えたセッションにも取り組んでいる。

大 府市出身で、多数の有名なアーティストや他ジャンルのアーティストと共演するなど幅広く活躍するバイオリニストの水野紗希さん。これまでも市内で数々のバイオリンコンサートを開催しています。

豊かな自然の中で すくすく育った少女時代

バイオリンを始めたきっかけについて水野さんは、「母に勧められ、4歳の時に始めました」と話します。その後、スズキ・メソードでもバイオリンを学び始め、そこで「いろいろな楽器と一緒に演奏する楽しさを学びました」と当時を振り返ります。

現在は東京で暮らす水野さん。大府のまちについて、「自然が豊かで、大きな公園がたくさんあり、子育てをするようになって一層大府の住みやすさを感じるようになりました」と東京で生活しているからこそ感じる大府の良さを語ります。

子どもの頃は、大府みどり公園を駆け回る活発な女の子だったそうです。大倉公園つじまつりでは、親と子の写生大会にも参加したことがあるとい

母だからこそ、できることを

水野さんは現在、月1回のペースでソロコンサートや子ども向けのコンサートを開催しています。「子どもたちに、バイオリンとピアノの生の音を至近距離で届けたいという思いから、子ども向けのコンサートを始めました。育児で大変なお母さんたちにも少しでもリフレッシュしてもらえたらと思います」と語ります。自身も5歳の長女と令和元年4月に生まれた長男を育てる二児の母。子育てをする身だからこそ、子どもだけでなく、親にも寄り添うコンサートの必要性を感じています。

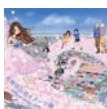
育ったまちへの恩返し

日頃から「大府市に恩返しをしたい」と考えていたという水野さん。令和元年5月、岡村市長からの「大府市制50周年を記念し、大府市公式イメージ曲を制作してもらえないか」という打診を二つ返事で受諾しました。そして完成した市公式イメージ曲は、しっとりとした優雅な旋律の「HABATAKI」と、躍動感のある「FUN! OBU」の2曲。

市公式イメージ曲について、「自然が豊かで、住みやすいまちである大府のイメージを表現しました。どの



1名古屋国際会議場で行われたスズキ・メソード東海大会の様子(写真中央・当時4歳) 27歳の時のバイオリンの発表会 32010年10月に行われたトークライブ 4市公式イメージ曲を制作している時のひとこま 5議場で行われた市公式イメージ曲完成披露コンサート



市公式イメージ曲は
こちらから
視聴できます



▲2012年6月1日号表紙

広報おおぶ平成24年6月1日号では、勤労文化会館現在・愛三文化会館で行われた「おおぶトークライブ&水野紗希バイオリンコンサート」の様子を表紙に掲載しました。



1 2014年3月、少年少女バドミントン教室で中学生にバドミントンを教える
2 小学6年生の時のダブルスでの試合
3 中学2年生の全国大会
4 高校2年生の時、愛知県チームとして出場した第5回日本バドミントンジュニアグランプリ2006
(2 3 4 本人提供写真)

ち込んできた打田さんにとっての思い出の場所は、たくさんの汗を流してきた市民体育館現在…メディアアス体育館おおよびや体育センターといいます。

打田さんが一番印象に残っている試合は平成19年のインターハイだそうで、「団体・シングルス・ダブルスと連戦が続く、初めて試合中に足が動かなくなったことを覚えています」と語ります。試合の激しさを思わせる言葉で、後にも先にもこの経験はなかったそうです。「大府はバドミントンが盛んで、部活でできることが幸せなこと

**厳しい練習を乗り越え
バドミントンに愛情を注ぐ**

バドミントン一筋で貫き通すことができた理由を聞くと「練習はきつかったけれど、それを越えるくらいの楽しさがありました」と、バドミントンへの愛情を話します。そんな打田さんは

「たくさんの方にお世話になり、感謝しています。バドミントン界が盛り上がるように、できることからお手伝いし、頑張っているプレーヤーの皆さんを応援しています」。打田さんは感謝の気持ちと現役選手たちの活躍を願うメッセージを残しました。

です。バドミントンをしたことがない子も気軽に始められることに魅力を感じます」と、遠征などで全国津々浦々を巡ったからこそ分かる、スポーツのまち大府の良さを語ります。

平成28年に引退後、月に数回バドミントンの講習会や、お世話になった『はりあつぶ』などで練習のお手伝いをしています。「大府から世界で活躍する子が生まれるように願い、応援しています」と地元の後輩の将来を楽しみにしています。



▲2007年10月1日号



▲2014年4月1日号

広報おおぶ平成19年10月1日号では、高校3年生の打田さんにインターハイのシングルスとダブルスで準優勝したことについてのインタビュー記事を掲載しました。

市スポーツ功労者表彰受賞時の広報おおぶ平成26年4月1日号では、2013年ヨネックスオープンジャパンでの準優勝時の試合の振り返りやリオデジャネイロ五輪への出場に向けた意欲などを掲載しました。



バドミントンの未来を応援。

元バドミントン選手

打田 しづか

>>PROFILE 大府市出身。神田小、大府中を卒業後、岡崎城西高校に進学。高校3年生の時に全国高校総体シングルス・ダブルス準優勝。2008年から日本ユニシスに所属し、2013年、ヨネックスオープンジャパンで準優勝。2014年3月、市スポーツ功労者表彰を受賞した。



日本ユニシス所属時代。海外で行われた試合でのヘアピンショット(本人提供写真)

小

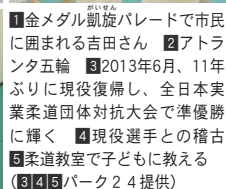
学4年生から実業団チームまでの18年間、選手としてバドミントンに情熱を注いできた打田しづかさん。

日本ユニシス所属時代に出場した2013年ヨネックスオープンジャパンでは、準決勝で2011年世界選手権金メダリストの王儀涵選手(中国)を破る金星をあげて決勝進出。決勝では山口茜選手に惜しくも敗れましたが準優勝に輝きました。「決勝で負けたことは悔しいですが、強豪選手を相手にいい試合をして、決勝まで勝ち残れたことは自信になります」と当時の悔しさと満足感の入り混じった思いを振り返ります。打田さんは、その輝かしい功績から、平成26年3月に市スポーツ功労者表彰を受賞しています。

遊び感覚で始めたバドミントン

バドミントンを始めたのは母が友人にファミリーバドミントンに誘われ、一緒にやって行っただけのことです。当時は、遊び感覚だったので、本格的にバドミントンを始めたのは、『はりあつぶジュニア』に入団した小学4年生の時です」と話します。『はりあつぶジュニア』が結成されたのもこの時で、打田さんは1期生にあたります。

小・中学校時代、バドミントンに打



柔道に身をささげてきた自らを振り返り、「柔道は自分の中心。柔道をやっていなければ今の自分はありません」と柔道愛を語ります。

根っからの柔道家・吉田さんは、引退後、総合格闘技に参戦し、その後再び柔道界に復帰します。現在は五輪メダリストも所属するパーク24柔道部の総監督を務めています。「今は柔道の指導より、選手の練習環境をいかに整えてあげられるか、そういった点に力を入れています」と、サポート役に徹しています。また、小学生を対象にした無料の柔道教室を毎週開催するなど、柔道の普及活動にも力を入れています。

1 金メダル凱旋パレードで市民に囲まれる吉田さん 2 アトランタ五輪 3 2013年6月、11年ぶりに現役復帰し、全日本実業柔道団体対抗大会で準優勝に輝く 4 現役選手との稽古 5 柔道教室で子どもに教える (3/4/5 パーク24提供)

広報おおぶに掲載した吉田さんの活躍。明治大学3年時に嘉納治五郎国際柔道大会で優勝した後に、感想などをインタビューした記事や、バルセロナ五輪での優勝決定の瞬間、大府駅から市役所までの凱旋パレードをする様子を掲載しました。



▲1991年1月15日号裏表紙



▲1992年8月15日号表紙



▲1992年9月1日号中面(金メダル凱旋パレード)

大府から金メダリストが再び現れることを願う

東京五輪については「百国で行われるオリンピックは正直うらやましいですね。選手たちにとっても最初で最後の日本でのオリンピック。目標に向かって、一生懸命頑張つてほしい」と力を込めて話します。「東京五輪は市民の皆さんにとっても一大イベント。選手たちを丸ごと応援しましょう」

「う。そう呼び掛ける姿からは、自身が応援されてきたことへの感謝の気持ちが表れています。

柔道をはじめスポーツに取り組んでいる子どもたちに「今しかできないことを一生懸命後悔しないように頑張つてほしい」とエールを送る吉田さん。最後に「大府から金メダリストが現れることを願っています」と締めくくりました。

柔道は自分の中心。

五輪柔道金メダリスト

吉田 秀彦



「時」 が経つのは早いものです。皆さん覚えていませんか？」と笑顔で話すのは、市出身で平成4年のバルセロナ五輪柔道男子78kg級で金メダルを獲得した吉田秀彦さん。優勝を決め、拳を天に突き上げ、全身で喜びを表したシーンや、柔道引退後に参戦した総合格闘技で、各界の強者と戦う姿を覚えている方も多いのではないのでしょうか。

現在も柔道に関わる大府市初の金メダリスト・吉田秀彦さん。当時の話や東京五輪への思いを語ります。

応援があつての金メダル

平成4年のバルセロナ五輪後の凱旋パレードには、大府市初の五輪金メダリストの誕生に沸く市民が数多く駆け付け、「大府駅を降りるとあふれんばかりの人が出迎えてくれました。『大府市にこんな人がおったんだ』と驚いたことを覚えています。金メダルを取れたのは、たくさんの方の応援があつたからこそ。感謝です」と話します。この時、吉田さんには市から第1号となる市スポーツ功労者表彰が贈られています。

この柔道教室では、後の柔道人生に大きな影響を与える恩師・大石康先生と出会います。「小さな頃から基礎をきつと教える」を指導方針とする大石先生の練習は厳しく、「当時は泣きながら柔道をしていました。大石先生には『根性』を鍛えられました。懐かしそうに振り返ります。苦しかった当時の経験は今でも生きていっていると言います。大石先生が教わった技は「天外刈り。大石先生に教わった最初で最後の技です」といたずらっぽく笑います。

輝かしい成績を残してきた吉田さんですが、けがの影響もあり、30歳過ぎで選手生活にピリオドを打ちました。

根性が鍛えられた少年時代

柔道を始めるまでサッカー・バスケットボール・水泳など、さまざまなスポーツをやっていた吉田さん。鼓笛隊でトランペットを吹いていたこともあったそうです。

吉田さんが柔道を始めたのは小学4年生の時。新聞で柔道教室の生徒募集を見た父親から勧められたのがきっかけでした。練習は長草公会堂2階や体育センターに畳を敷いて行われたそう。『練習後の体育センターのジュースの味が忘れられない』と当時のエピソードも教えてくれました。

人の心に届く 音楽家になりたい。



チェリスト

佐藤 桂菜

>>PROFILE 大府市出身。石ヶ瀬小、星城中に進学後、2019年6月まで米国ボストン郊外の芸術高校で音楽を学ぶ。同年9月からニューヨークにある音楽大学「ジュリアード音楽院」に通う。チェリストとして、数々の音楽家と共演。

期 待の若きチェリストの佐藤桂菜さん。留学先の米国での生活や音楽を始めたきっかけ、偉大な先輩への思いなどについて語ります。

世界最高峰の音楽大学へ

昨年9月から米国最高峰といわれる音楽大学「ジュリアード音楽院」で学んでいる佐藤さん。世界的な音楽家を多数輩出してきたレベルの高い環境の中で日々音楽と向き合っています。「充

自分の長所を磨いていく

実しているけど忙しくて、3カ月があつという間に過ぎちゃいました。ダンサーや俳優を目指す人と共演することもあり、とても刺激的です」と学校生活を振り返ります。

順風満帆に見える佐藤さんですが、入学後は周りのレベルの高さに焦りを感じます。「周りは才能を持った人ばかり。なんで私はここに受かったのだろう。みんなに全然追い付いていけないあ、と自己嫌悪に陥っていました」と語ります。

そんな時、指導を仰ぐ先生から、『自分と他人を比べてはダメ。桂菜にもいいところがあるよ。そこを磨いてみたら』とアドバイスを受けます。自分自身を客観的に見つめ直し、「今では自分の長所を磨いていこうと思えるようになりました」と一ツ壁を乗り越えます。

チェロとともに歩む人生

佐藤さんとチェロとの出会いは0歳の時。母親のあけみさんは「0歳でチェロの音色に興味を持ち、スズキ・メソードの教室に通わせました。最初は鉛筆を弓に見立てて、『きらきら星』の音楽に合わせてリズムを取る練習をしていました。実際にチェロを使ってみて練習を始めたのは3歳からです」と当時の様子を話します。スズキ・メソードの教育法は、与えられた曲をマスターしたら次の曲に挑戦できるシステム。佐藤さんは「自分よりも新しい曲をやっている子に負けたくない。早く次の曲が欲しい」と思っていたそうで、負けず嫌いな一面も垣間見えます。

中学1年生の時には、初めてのオーディションを経験し「NHK名古屋青少年交響楽団」に入団。中学3年生の時にはNHKナゴヤニューイヤースタートに出演する機会に恵まれ、ピアノの清塚信也さんやバイオリン2人の古澤巖さんなど、一流の音楽家と共演します。このコンサートは佐藤さんにとって音楽人生のターニングポイントとなり、「本格的にチェロで音楽の道に進みたい」と家族に打ち明け、音楽留学を決めます。

0歳からチェロを愛し、チェロと共に歩んできた佐藤さんは、チェロの魅力に「深い音が好き。チェロはいろ

偉大な先輩を追いつける

令和3年、市制50周年PLUSS1記念事業として行われるコンサートで、佐藤さんは竹澤さんと再び同じ舞台に立つ予定です。意気込みを聞くと「竹澤さんに自分の成長を感じてもらいたい。後輩として恥ずかしくない演奏をしたいです」と熱く語ります。



▲2016年3月1日号中面



1 第25回日本クラシックコンクール全国大会第1位受賞者演奏会
2 愛三文化会館で行われた2007クリスマスコンサート(7歳の頃)



1-のシール

▲木村さんが描き下ろしたラフ画

突撃 おぶちゃんは、
ずっとそばにいる心の支え

ぶちゃんの原作者
木村香央里さん

おぶちゃんの生みの親、
木村香央里さんにインタビュー！
おぶちゃんへの思いや、誕生秘話
などに迫りました。

Q おぶちゃんの誕生秘話を教えてください。

A 教科書に載っていた大府市の形がキャラクターに見えたことが始まりです。長草町辺りを口にして最初考えていましたが、大きくなりすぎていくように見えて怖かったので、今の形に変更しました。体の色は健康をイメージして黄色に決定しました。

Q これまでのおぶちゃんの活躍を見て
どう思いますか。

A 下積みが長かったので、今もいろいろなところで活躍しているおぶちゃんをみると頑張っているなと思います。これも皆さんに愛してもらえているおかげなので、とてもうれいいます。

Q
ずばり木村さんにとっておぶちゃんとは
どういう存在ですか。

A 心の支えです。おぶちゃんが頑張っている姿を見ると、自分も頑張ろうと思える、心強い存在です。



▲2018年12月15日号表紙



▲2014年3月1日号表紙



▲2006年5月1日号



大府市公式
マスコットキャラクター

おぶちゃん

>>PROFILE 名前：おぶちゃん 誕生日：3月27日 チャームポイント：市の花クチナシ

趣味：ウォーキング 好きな食べ物：ブドウ・ジャンボ梨・木の山芋
 体の形は^{たすき}大府市の地形。襷をかけて未来への健康の橋渡し役を務めて

今 平成18年3月27日、健康日本21大府市推進評議会で、健康づくり推進マスコットキャラクターに選ばれた。当時大府東高校に在学していた木村香央里さんの手によって誕生。その年の9月に福祉・健康フェアでおぶちゃんシールとして登場したのを皮切りに、おぶちゃん体操を保育園の子どもたちと実践するなど市民の健康づくりに貢献してきました。

その活躍が認められ、おぶちゃんは平成29年8月30日に市公式マスコットキャラクターに任命され、健康分野だけでなく、市全体の啓発活動に取り組むようになりました。

おぶちゃんの名を全国に轟かせたのが、平成30年に行われたゆるキャラグランプリ2018。おぶちゃんは全国のゆるキャラたちのぎを削り、第6位に輝きました。今も全国から年賀状が届き、イベントで市内外から会場に来るファンがいるなど、その人気は衰えていません。

最近は大府シティ健康馬拉ソンにランナーとして登場したほか、マンホールのデザインに使われたり、原作者の木村さんとの共同企画グッズに登場したりするなど活躍の場を広げています。





■世界初挑戦は地元・名古屋レインボウホール(現:日本ガイシホール)で。大府から駆け付けた大応援団が会場を埋め尽くす ②同試合で放つ渾身の左ストレート ③飯田覚士ボクシング塾ボックスファイで小学生に教える

し。無敗のまま世界タイトル戦に挑むこととなりました。

一見順風満帆に見えるボクシング人生ですが、世界タイトルの獲得まで3度挑戦しています。世界初挑戦時には「大府から500人程の大応援団が駆け付けてくれました。海外の選手は計り知れない強さでしたが、あと一步のところで」と、2度目の挑戦後には「チャンピオンになることは雲の上のことで自分にかなうのか。1回目はKO負け、2回目はドロー。やることは全てやった。自分はチャンピオンにならない運命なのか」と感じた当時の心境を振り返ります。

しかし、3回目の挑戦を目指すようになり。『なんでダメなの?』と思いつつ、試合後のシャワー室でうなだれていたところ、『もっと頑張れ』と天から声が聞こえました。続けて「エネルギーは限界。あとは心を鍛えるのみだ」と。それ以降、精神面を強くすることを決め、『肯定、感謝、うれしい、楽しい』を常に心掛け、平成9年12月、2度目に対戦した相手にリベンジを果たし、WBA世界スーパーフライ級王者の座を獲得しました。

スポーツ界には、引退が付き物。飯田さんもその例外ではなく、平成10年12月、3度目の防衛戦で古傷の右肩を脱臼。しかしこの試合でけがを抱えながらも飯田さんは「左がまだ使える。1%でも可能性があるなら諦めない」とダウンせず戦う姿勢を見せ続けました。その後、そのけがの影響もあり、引退を決定します。

現在、飯田さんは平成16年に開設した『飯田覚士ボクシング塾ボックスファイ』でボクシングでの経験を生かし、見る力を鍛える視覚能力トレーニング教室を開き、一線を退いた今も後進の育成に励んでいます。

今描いている夢を聞くと「何か地元で恩返ししたいですね。」

1%でも可能性があれば、諦めない

しかし、3回目の挑戦を目指すようになり。『なんでダメなの?』と思いつつ、試合後のシャワー室でうなだれていたところ、『もっと頑張れ』と天から声が聞こえました。続けて「エネルギーは限界。あとは心を鍛えるのみだ」と。それ以降、精神面を強くすることを決め、『肯定、感謝、うれしい、楽しい』を常に心掛け、平成9年12月、2度目に対戦した相手にリベンジを果たし、WBA世界スーパーフライ級王者の座を獲得しました。

スポーツ界には、引退が付き物。飯田さんもその例外ではなく、平成10年12月、3度目の防衛戦で古傷の右肩を脱臼。しかしこの試合でけがを抱えながらも飯田さんは「左がまだ使える。1%でも可能性があるなら諦めない」とダウンせず戦う姿勢を見せ続けました。その後、そのけがの影響もあり、引退を決定します。

現在、飯田さんは平成16年に開設した『飯田覚士ボクシング塾ボックスファイ』でボクシングでの経験を生かし、見る力を鍛える視覚能力トレーニング教室を開き、一線を退いた今も後進の育成に励んでいます。

今描いている夢を聞くと「何か地元で恩返ししたいですね。」



ボクシング人生を歩んだ 自分は『人生の先輩』

元ボクシング世界王者

飯田 覚士

>>PROFILE 1969年名古屋市生まれ。幼い頃からは北崎町で過ごし、大府東高校卒業後、岐阜経済大学に進学。大学3年時に日本テレビ『天才たけしの元気が出るテレビ』の『ボクシング予備校』に参加し、1991年プロデビュー。1994年に日本王者を獲得後、1997年12月、3度目の挑戦にて悲願のWBA世界スーパーフライ級王者に輝く。2度防衛後、1998年12月、判定負けで王座陥落。翌年2月に現役を引退。プロ通算成績は28戦25勝2敗1分け。現在2004年に開設した『飯田覚士ボクシング塾ボックスファイ』(東京都中野区)主宰。

元 WBA世界スーパーフライ級王者の飯田覚士さん。ボクシングを始めたきっかけや当時の心境、現在の活動について聞き、飯田さんの人柄に迫ります。

ボクシングで一生分を経験

「現役時代に人が生まれてから死ぬまでの一生分の経験をできたんじゃないか」と思います。ボクシング人生を歩んだ自分は、人生の先輩で、もう一人の自分がいる感覚です。そう話すのは市出身で、元プロボクサーの飯田覚士さん。平成9年12月23日、ヨックタ・イスオーに勝利し、WBA世界スーパーフライ級王者に輝きました。

飯田さんは、日本テレビのバラエティ番組「天才たけしの元気が出るテレビ!!」の『ボクシング予備校』という企画への応募がきっかけでプロボクサーになりました。当時この応募ハガキを出す人生が変わる。ビビッとくるものがあつたと話し、人生の転換期を感じていました。その後、平成3年にプロテストに合格。「番組は終わったのですが、周りの反響が大きく、引くに引けなくなりました。取りあえず一旗揚げよう」と、ボクシングに明け暮れる決意をしました。

世界タイトル戦までの戦績は、20戦20勝10KO。飯田さんは一戦、戦の積み重ねで勝利を重ね、日本では敵な

れが私の使命だと思います。まずは大府の子どもたち向けの講座を行いたい。皆さん、ぜひご期待ください」と話します。

現在の飯田さんはボクシング人生で例える世界王座挑戦時くらいなのでしょ。地元で応援されてきたからこそ芽生えた恩返しの気持ちに胸に、人生の先輩であるもう一人の自分の助言のもと、後進の育成のために今も人生のリングの上に立ち続けています。



▲1998年1月15日号表紙

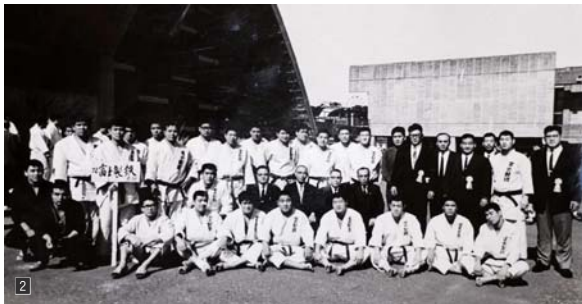


▲1996年2月1日号裏表紙

広報おおぶ平成8年2月1日号では世界タイトル戦への決意を語り、平成10年1月15日号では世界王者に輝きチャンピオンベルトを巻いた姿で表紙を飾りました。



■1961年、富士製鉄時代の大石さん。全日本実業団対抗柔道大会で優勝
 ■1969年、富士製鉄所属の柔道部員。写真2列目右が神永昭夫さん、その左隣が大石さん



尊敬する柔道家との出会い
 柔道が五輪に初登場したのは昭和39年東京五輪。日本は軽量級、中量級、重量級と金メダルを獲得し、神永さんは日本中の期待を背負い、無差別級に出場。しかし、最後に立ち回しはなかった

を、実感したエピソードを語ります。
 その後大石さんは、出水中学校、出水高校に進学し、勉強と部活を両立しながら努力を重ね、高校2年生の鹿児島県大会団体戦では準優勝に輝きました。その後社会人として柔道を続けるにあたり、全日本選手権チャンピオン、のちに東京五輪無差別級代表となる神永昭夫さんに憧れ、富士製鉄（現・日本製鉄）に入社します。



広報おおぶ昭和58年6月1日号では、全国少年柔道大会で全国初制覇した時の気持ちなどを語っていました。



▲1983年6月1日号裏面

のは、体格ではか上に回るオランダのアントン・ヘーシンクでした。神永さんはヘーシンクに押さえ込まれ、一本負け。この試合後「柔道がJUDOになった日」として、国民の心に記憶されました。大石さんは「神永さんは負けの翌日も何事もなくたかのようにな仕事をしていた。本当に模範となる人です」と尊敬のまなざしで当時を振り返ります。

そんな尊敬する先輩の神永さんが、東京五輪の決勝で敗れた後、大石さんにある言葉を残します。「小さな時から基礎をしっかりと鍛えなければ、日本は体格のいい外国勢に勝てなくなる」。基本が大事と実感した自身の経験と重なり、基礎から教える少年柔道の指導に取り組み決意をしました。



いつまでも
 持ち続ける親心。

大石道場創設者 大石 康

>>>PROFILE 1942年10月、東京都生まれ。3歳の時、鹿児島県出水市へ移り、10歳で柔道を始める。高校卒業後、富士製鉄に入社。1975年大府で大石道場(共和町)を設立。1992年バルセロナ五輪金メダリストの吉田秀彦さんを始め国内外で活躍するアスリートを数多く輩出。2016年その功績が認められ、市スポーツ栄誉賞を受賞。

少 年柔道の強豪道場である大石道場創設者の大石さん。道場を設立したきっかけや指導時のエピソードなどを通して、大石さんの人柄に迫ります。

基本をたたき込んだ1年間

バルセロナ五輪柔道金メダリストの吉田秀彦さん、谷本歩実さんをはじめ、多くのアスリートを指導するなど指導者として名高い大石さん。自身も選手として柔道生活を送ってきました。

大石さんは東京で生まれた後、物心付く前に鹿児島島に移り住みます。小学5年生の時、腕っぶしの強さを生かすために柔道を始めたいと思った大石さんですが、母の死別と戦後で衣食もままならない状況があり、柔道着が買えなかったそうです。先生に相談すると週に2回なら学生服でもいい。ただし、受け身だけだと言われ、柔道を始めます。柔道着を手に入れたと思ったら大石さんは上級生に相談すると「新聞配達のアパートをしてみたらどうだ」と助言され、毎朝新聞配達をしてから小学校に行く生活が始まりました。「柔道着を買うまで1年間受け身の練習をしました。受け身を学んだことで技をかけられる恐怖心がなくなり、上達が早かったです」と基本の大事さ

基礎を大切に、失敗を恐れない心をつくる

昭和43年、富士製鉄(株)名古屋製鉄所(東海市)に転動後、昭和48年に会社を辞め、東海市の接骨院で2年間修行し、昭和50年4月、大府市で接骨院の開業と大石道場を設立しました。

指導する上で、心掛けていることは「まずは道場の中心となる柱を作ること。一人柱を作れば、周りがついてくる。次に失敗を恐れないことと話します。」吉田(秀彦)さんは教えたばかりの技をすぐに試合で使い、失敗して負けることがよくありました。でもこれが大事。失敗を恐れずに技を使わないとうまくならない。これが、彼が上達した理由だと思えます」と吉田秀彦さんとの秘話を語ります。

「吉田がバルセロナ五輪で金メダルを取り、凱旋パレードをした時、多くの市民が駆け付けてくれました。市民の応援は力になります。柔道に限らず、子どもたちは自分のためだけに努力することには限界があり、良き理解者、協力者、応援者がいれば、より一層成長します。ぜひ応援してあげてほしい。」

親心あふれる大石さんは、神永さんの精神を受け継ぎ、今日も畳の上に立ち続けます。



1「その鉄塔に男たちはいるという」舞台写真(写真左・撮影：谷古宇正彦)

2「B級ブラクティス」結成初期の公演写真(写真右・提供写真)

3「隣の芝生も。」舞台写真(写真中央・撮影：谷古宇正彦)



平成26年9月、進路や人生に悩むすべての人に送る土田の人生劇場を披露するトークライブを開催しました。

ていたんです。でも演劇って面白そう
と思い、友達と始めました」と、演劇
の世界に足を踏み入れます。
軽い気持ちで演劇を始めた土田さん
にその年の冬、早くも転機が訪れま
す。「鴻上尚史さんの『デジャ・ヴー』
という作品の公演でなぜか主役に抜て
きされたんです。あれほど緊張したこ
とはこれま でなかったんだけど、終
わった後は充実感でいっぱいでした
と当時を振り返ります。
そして、この体験が土田さんの内面
を大きく変えます。「高校までは、周

社会を映しながら、
なによりも楽しいものを
その後、土田さんは大学を中退し、
平成元年に「B級ブラクティス」とい

う劇団を結成します。この劇団は後に
名前を「MONO」に変え、今に続きま
す。これまでに上演した作品はすべて
土田さんが作・演出を担当していま
す。その中の代表作『その鉄塔に男た
ちはいるという』は、外国の戦地に慰
問で送り込まれた芸人らが、森の中の
鉄塔に脱走し、戦争が終わるのを待つ
という内容。北朝鮮が弾道ミサイルを
発射した頃、気軽に「戦争すればいい
じゃん」と話す人がいたことに、この
物語の着想を得たと話します。
土田さんの作品には、その時々々の社
会情勢が反映されたものがありますが
「演劇を通して啓蒙しようとは思って

いません。楽しいと思ってもらえるも
のを表現し続けたいです」と脚本を書
く上での心構えを語ります。
長く大府から離れた暮らす土田さん
は、地元大府のことについて、「大府
は住んでいた頃から人口が増えました
ね。これは発展している証し。大きな
まちになってほしいです」と大府への
期待をのぞかせます。
「演劇は表現の中ではマイナーな
ジャンル。でも市民の皆さんに僕ら
の演劇を理解してもらえようような活
動を今後していきます」。土田さんは
今後もふるさに胸を張れる表現者
であり続けます。

演劇がくれた 「生きた感情」

劇作家・演出家・俳優

土田 英生

>>>PROFILE 劇作家、演出家、俳優。1967年、大府市生まれ。神田小、大府中、星城高校を経て、立
命館大学に入学後、「立命芸術劇場」に入り演劇の世界へ。1989年に「B級ブラクティス」(現MONO)結
成。1990年以降全作品の作・演出を担当。1999年『その鉄塔に男たちはいるという』で第6回OMS戯曲
賞大賞を受賞。ドラマや映画の脚本も多く手掛け、代表作に映画『約三十の嘘』、日本テレビ系列ドラ
マ『斉藤さん』など。2020年、TBS系列ドラマ『半沢直樹』続編に役者として出演。

小学生で出会った芝居の世界
俳優として自ら演じることもある
土田さんと演劇との出会いは神田小
学校2年生の頃までさかのぼります。
「学芸会で小鳥2という役をやったん
です。セリフは『チュンチュン』だけ
だったけど、私のセリフに続いて、み
んなが『チュンチュン』と言うので、
特別な感じがしてうれしかったんで
す。人前で演じたのはこれが初めて」。
演劇の原点はこの時だったといい、こ
の時から脚本にも興味を持ちます。
「小学生の頃に見た芝居で自分ならこ
う書くのにな」と物語に違和感を抱
くことがあったんです」と、小学生な
がら脚本を意識していたエピソードを
語ります。

演じることで爆発した感情

土田さんが本格的に演劇を始めたの
は立命館大学時代。「最初はお笑いに
も興味があったから落語研究会と迷っ

京都を拠点に活動する劇団「M
ONO」の代表で、舞台の劇
作・演出やテレビドラマの
脚本など数多く手掛ける土田英生さ
ん。劇作・演出・脚本・俳優・執筆と
マルチに活躍する土田さんが、自身の
原点や演劇に対する思いを語ります。



1 1981年、甲子園出発前に行われた市民壮行会 2 甲子園で入場行進する大府高校ナイン(前から2人目の選手が横原さん) 3 センバツ2回戦御坊商工戦、大雨の中での投球 4 ピンチの場面で横原さんを中心にマウンドに集まる選手ら 5 甲子園のマウンドで力投する横原さん



▲1981年4月15日号 甲子園特集



▲1981年7月15日号
最後の夏への意気込み



▲1982年1月1日号 新春特集 今年の顔



▲1984年1月15日号
プロ野球新人王獲得後の市長表敬

後輩への誇り 大府への愛着

ミスターパーフェクト

横原 寛己

>>>PROFILE 大府高校を卒業し、1981年ドラフト1位で巨人に入団。翌年4月16日阪神戦でプロデビュー。同年12勝を挙げて新人王に輝く。1994年5月18日、広島戦で完全試合を達成。通算468試合登板、159勝128敗56セーブの成績を残し、2001年に引退。現在は野球解説者として活躍。



巨 人で1990年代、先発投手3本柱の1人として活躍し、平成唯一の完全試合※達成者である横原寛己さん。横原さんは大府高校出身で、夏1回、春1回甲子園に出場しています。

公立高校から甲子園に

横原さんは半田中学校時代に野球を始めます。当時から背が高く、大型投手として県内では有名で、野球強豪校から勧誘を受ける中、大府高校を選んだ理由を「公立高校に行きたかったんです。兄が通っていたし、公立で甲子園を目指すなら大府かな」と語ります。甲子園を目指すために大府高校に進みましたが、内心は難しいと感じていました。しかし、控え投手としてベンチ入りしていた2年生の夏、チームは甲子園出場を決めました。初めての甲子園は、高校時代に最も印象に残っている思い出で、「悩んだ末に大府高校への進学を決めました。この選択は間違いないでなかったと感じました」と話します。

早くも夢をかなえた横原さんですが甲子園での登板はありませんでした。それでも出場したことで「強豪校にも勝てる自信が付きました。新チームでは自分がしっかりしないといけないと強く思いました」と自信と自覚が芽生

年12勝を挙げ新人王に輝きます。その後もチームの主力選手として活躍を続け、平成13年の引退後は野球解説者としてお茶の間の人気者となります。

後輩への誇り

高校卒業後も母校のことを常に気に掛ける横原さん。自身のセンバツ出場後、春3回、夏1回の甲子園出場を果たした後輩たちを「公立高校で甲子園出場を果たしたことが素晴らしい。甲子園で『OBU』のユニホームを見ると当時の記憶がよみがえり、誇らしい気持ちになります」とたえまです。

野球を愛し、母校を愛する横原さんは、令和2年の春夏の甲子園が中止になったことに「本当にかわいそうで、心中お察しします。甲子園に出場することも記憶になるが、ここまでやってきたことも思い出ったりします。残

えます。その言葉通り、新チームではエースとなり、チームを県大会、中部地区大会優勝へと導き、初めてのセンバツ(春の甲子園)出場を決めます。センバツ初戦、金村義明投手(後に近鉄・中日・西武で活躍を擁する報徳学園兵庫)と対戦しました。1回表、初めて甲子園のマウンドに立った横原さんは「初球を投げる」と球場全体が湧いたんです。今でも忘れられない」と振り返ります。この試合、大府高校は5対3で勝利。ストレートは当時の甲子園最速147km/hを計測しました。続く2回戦は大雨の中、本来の力を出せず、御坊商工(和歌山)に0対4で敗れますが、剛速球投手として全国にその名をとどろかせます。

ドラフト1位でプロの道へ

夏は県大会で敗退し、甲子園に届かなかった横原さんですが、その年のプロ野球ドラフト会議で巨人から1位指名を受けます。「3時間目の数学の授業が終わった後に女性の先生から聞きしました。うれしくて次の授業の内容は頭に入ってきたんですけど」と運命の日を振り返ります。

プロ入団後、1年目は2軍でじっくり鍛え、2年目(昭和58年)の阪神戦で初登板初勝利を完封で飾り、「プロでやれる」と確信した横原さんは、この

りの高校野球生活を刻み込んでほしい」と高校球児を気遣います。

大府を愛し続ける横原さん

横原さんが甲子園に出場してから40年がたとうとしています。大府といえば大府高校の横原の印象は野球ファンに限らず、根強く残っています。大府市民にとっても横原さんは誇りであり、自慢のヒーローでもあります。今もたまに大府に足を運ぶそうです。「私が高校生の時と比べて随分街並みが変わったよね。昔は農地が多かったけど、今は名古屋市のベッドタウン。さらに発展して100年200年と続く大府であってほしいです」と市制50周年に寄せる思いを話します。

40年前、「大府」の名を全国に知らしめた剛腕投手は、今でも「大府」を愛し続けています。

※完全試合…相手チームの打者を安打・四死球・失策で一度も出塁させずに勝利すること。パーフェクトとも呼ばれる。



1 第51回日本音楽コンクールバイオリン部門で15歳という若さで1位に輝く
生を対象に3年に1度開催



2 2018年6月、大府中学校での学校訪問コンサート。中
学



3 2019年2月、市広報大使に就任



▲1978年1月1日号
新年の期待と抱負



▲1983年4月15日号
プロの道へ進む決意



▲1999年8月1日号
桐朋女子高校在学中、第51回日本音



▲1999年8月1日号
市初の芸術文化功労賞



▲2011年7月15日号
聴衆を魅了する竹澤さんと名フィル

「厳しい練習を乗り越え、コンサートを無事に終え、カーテンコールでいただいたお客さまからのスタンディングオベーションにとても感動しました。漠然とバイオリニストになりたいと思った瞬間でした」と語ります。バイオリン中心の生活で学校を長期で休むこともあった竹澤さんですが、学業もおそろそかに進みます。「授業ではとにかく先生の話を聞いて覚え、移動の新幹線でも勉強していました。バイオリンで培った集中力が勉強にも役立ちました」と話します。「先生方が私の活動を理解してくれ、同級生たちもリサイクルに駆け付け応援してくれました」と周囲への感謝も忘れません。桐朋女子高校在学中、第51回日本音楽コンクールに参加し、当時バイオリン部門で史上最年少の15歳で第1位に輝きます。米国最高峰といわれる音楽大学ジュリアード音楽院「在学中には、インディアナポリス国際バイオリンコンクールで圧倒的な優勝を飾ります。『音楽家にとってコンクールで優勝することは、プロの音楽家のスタートに立つということ。優勝後のスケジュールはすさまじく、この賞をきっかけに各国とのマネジメントの契約をすることができました。憧れのカーネギーホールで演奏したときに、やっと一人前のバイオリニストになったと感じました」と振り返ります。

「好きなことを見つけて、人生を豊かにしてほしい」世界を飛び回る傍ら、竹澤さんは平成18年から3年に1度、市内全中学校を訪問し生演奏を届けています。「音楽を通して何かしらのエネルギーを伝えたい。人の心を動かし、好きなことを見つけるきっかけにしてほしい」とその思いを語ります。バイオリニストの水野紗希さんやチェリストの佐藤桂菜さんなど、若い演奏家たちが大府から育っていることについて、「音楽に興味を持ち、活動をする人が増えるのはうれしい。一緒に音楽を通して市民の皆さんの生活を豊かにしていきたい」と話します。市制50周年を迎える大府市について「私と大府市はほぼ同世代。まちが成長し、若い家族が増え、発展し続ける大府市は将来につながるまち。大きな未来を持っている若い人たちが長年大府を支えてきた人たちの生活を豊かにできるよう、私にできることをこれからも続けていきたい」とふるさとへの思いを語ります。「将来的には大府市から世界に発信できるような音楽祭を開催したい。世界の目が大府に注がれる日、その舞台の中心で演奏する竹澤さん。そんな日を夢見て、今日も竹澤さんのバイオリンの音色が世界中の人の心を魅了しています。



「好きなもの」が
人生を豊かに



2011年7月、市音楽祭で名古屋フィルハーモニー交響楽団(名フィル)と共演

世界的なバイオリニスト 竹澤 恭子

>>>PROFILE 大府小、大府中出身。3歳でバイオリンを始め、小学6年生の時には市音楽祭で演奏した。1986年、世界三大バイオリンコンクールの一つの第2回インディアナポリス国際バイオリン・コンクールで圧倒的な優勝を飾り、国際的スターダムにのし上がる。2006年から市内全中学生に生演奏を届ける活動を行っている。

「バイオリンがやっぱり好き。音楽が与えてくれた力は大きく、大作曲家が残した曲の素晴らしさは追及しなくなる魅力がある。まだまだ探究中です。」そう語るの、世界で活躍する市出身のバイオリニストの竹澤恭子さん。

世界観を変えた演奏旅行

竹澤さんがバイオリンを始めたのは3歳のとき。「誕生日に両親からバイオリンをプレゼントしてもらい、すぐにスズキ・メソードに通い始めました。音楽の楽しさに気づいたのもこの頃で「親戚の集まりの時に、雷で停電してしまっただけです。怖くて震えていましたが、いところが勝手にバイオリンで演奏を始めたんです。怖さを音楽が打ち消してくれて、音楽って人を楽しくさせてくれると思いました」と話します。

バイオリンにのめり込み、努力を続けた竹澤さんは、小学1年生の時にスズキ・メソードの海外派遣団に選ばれ、米国などへの演奏旅行に出掛けます。初めての海外に不安を抱えていたそうですが「音楽は世界共通語。バイオリンが私の分身となっていて思いを伝え、世界とつながることができました」と懐かしそうに振り返ります。さらにこの演奏旅行は竹澤さんのその後に影響を与えます。



FUN! OBU

夢ふくらむ 大府の未来

発行 愛知県大府市

令和2年9月1日発行

〒474-8701 愛知県大府市中央町五丁目 70 番地

☎0562-47-2111(代表)